

万国のプロレタリアは
団 結 して
われわれの共同の敵に
反 対 しよう

1962.12.15

外 文 出 版 社
北 京

万国のプロレタリアは
団結して
われわれの共同の敵に
反対しよう

外文出版社
北京

目次

万国のプロレタリアは団結してわれわれの共同の敵に反対しよう……………	五
（一九六二年十二月十五日付『人民日報』社説）	
チェコスロバキア共産党第十二回大会における中国共産党代表団の声明……………	六

万国のプロレタリアは団結してわれわれの共同の敵に反対しよう

(一九六二年十二月十五日付『人民日報』社説)

さいきん、帝国主義と各国反動派があらゆる手をつくして社会主義国に反対し、国際共産主義運動を破壊し、各国人民の革命闘争を弾圧しており、他方、各国の共産主義者が団結をつよめ、共同して敵にあたることを切実に必要としているとき、われわれのまことに痛心にたえないことは、国際共産主義運動の陣列のなかに、マルクス・レーニン主義に反対し、中国共産党とその他のマルクス・レーニン主義政党に反対し、国際共産主義運動の団結を破壊する一陣の逆流があらわれたことである。

過去一ヵ月あまりのあいだヨーロッパでブルガリア共産党第八回大会、ハンガリー社会主義労働者党第八回大会、イタリア共産党第十回大会、チェコスロバキア共産党第十二回大会があいついでおこなわれた。不幸なことは、これら諸党の大会の演壇が、こともあろうに兄弟党を攻撃するための場所として利用されたことである。団結を破壊し分裂をつくりだすこうした逆流は、イタリア共産党とチェコスロバキア共産党の大会であらたな高潮にたつした。いちぶの兄弟党の同

志は、ひきつづきアルバニア労働党を攻撃したばかりか、公然と名ざして中国共産党を攻撃し、そのうえ中国共産党を攻撃することに同意しない朝鮮労働党をも非難した。これは、各国共産党、労働者党が一致してとりきめた一九五七年のモスクワ宣言と一九六〇年のモスクワ声明にたいする無法きわまる違反である。これは国際共産主義運動におけるきわめて重大な事件である。

まねきをうけてチェコスロバキア共産党大会に出席した中国共産党代表団は、十二月八日、声明を発表して、「こうしたやりかたはモスクワ宣言とモスクワ声明に合致せず、社会主義陣営の団結と国際共産主義運動の団結に不利であり、帝国主義に反対する闘争に不利であり、世界平和をかりとる闘争に不利であり、また社会主義諸国人民の根本利益にも合致しない」「こうした誤ったやりかたは意見の相違を大きくし、分裂をつくりだすだけで、それは味方を痛心させ、敵を喜ばせるだけである」ときびしく指摘した。

中国共産党は一貫して、社会主義陣営の団結、国際共産主義運動の団結は全世界人民の根本利益だと考えている。この国際主義的団結を終始かわることなく守り、つよめることは、すべての共産主義者の神聖な責務である。各兄弟党にかかわりのある共通の問題はきわめて複雑であるし、各兄弟党のおかれた環境は一樣でなく、客観情勢もこれまたたえず変化しているのであるから、各兄弟党のあいだにちがった意見がうまれるのはつねにさげがたいことである。また、ちが

った意見がうまれるのは、かならずしも悪いことではない。大切なのは、国際主義的団結をまもり、それをつよめ、共同して敵にあたるという立場から出発して、モスクワ宣言とモスクワ声明の規定した兄弟党、兄弟国の関係についての準則をまもり、話しあいをつうじて見解を一致させ、これによって、団結を確実な保証あるものとしなければならないということである。

一年まえ、ソ連共産党第二十二回大会の席上はじめて、ひとつの党の大会をかりてもうひとつの兄弟党に攻撃をくわえるという誤ったやりかたがあらわれた。当時、中国共産党はこうした誤ったやりかたにだんこ反対した。この大会においても、またその後においても、中国共産党はたびたび、論争と意見の相違をもつ党、とくに最初に攻撃をおこした党が率先して、マルクス・レーニン主義の基礎、たがいに独立と平等を尊重する基礎のうえに立ってあらたに団結することをねんごろに呼びかけてきた。だが、残念なことは、われわれのこうした誠意ある努力も事態のひきつづき悪化するのを阻止できなかったことである。いちぶ兄弟党の指導者は、こうした誤ったやりかたをあらためようとしなればかりか、ますますはげしさをくわえ、分裂主義の道にますます深入りして、ついには最近ヨーロッパの四つの兄弟党の大会の席上、こうした誤ったやりかたがあいついであらわれるにいたった。

ここで、われわれはチェコスロバキア共産党大会の席上もちあがった事態についてのべてみた

チェコスロバキア共産党大会の席上、いちぶチェコスロバキア共産党の同志と、ある兄弟党の同志たちは、中国共産党を「冒険主義」、「セクト主義」、「分裂主義」、「民族主義」、「教条主義」であると勝手さまに中傷し、攻撃した。中国共産党代表団はその声明のなかで、こうした分裂をつくりだすやりかたにだんこ反対した。声明は、「こうした誤ったやりかたはすでに重大な結果をまねいた。もしもこれがつづけられるなら、いつそ重大な結果をまねくこととなる」と指摘している。だが、中国共産党のこうした団結に重きをおく態度も、この誤ったやりかたをとりつづける人びとを改心させることはできなかった。チェコスロバキア共産党のある指導者たちは中国共産党代表団の意見に「同意できない」とのべ、こうしたやりかたを「もう一步すすめる」態度をとりつづけ、中国共産党は国際問題にたいする自己の立場を「あらためて点検す」べきであるとも言い、さらに中国にたいするこうした中傷と攻撃を全世界のまえにさらけだした。こうした状況のもとでは、われわれも必要な回答をおこなわないわけにはゆかない。

チェコスロバキア共産党のいちぶの同志とある兄弟党の同志たちは、中国がいわゆる「冒険主義」の誤りをおかしたと攻撃している。かれらは、中国がキューバ問題で「賢明な妥協」に反対

し、全世界を「熱核戦争にひきずりこもう」としたといつて非難している。だが、事態ははたしてかれらの非難するとおりであろうか？

中国人民は社会主義各国人民、世界各国人民とおなじく、平和を愛している。中国は一貫して平和外交政策をおしすすめている。われわれは終始かわることなく国際緊張の緩和と世界平和擁護のため積極的にたかっている。中国は平和共存の五原則の首唱者である。われわれはゆらい、五原則にもとづいて社会制度のことなる国と平和的に共存することを主張し、話しあいをつうじて国際紛争を解決することを主張し、武力にうつつたえることに反対している。

中国共産党は一貫してこう考えている、世界平和をまもり、平和共存を実現し、国際緊張をやらわらげるには、なによりもまずアメリカ帝国主義の侵略と戦争の政策にだんこ反対せねばならず、人民大衆をたちあがらせてアメリカ帝国主義とまっこうから対決する闘いをすすめねばならぬ、と。われわれはまたこう確信している、モスクワ宣言とモスクワ声明の指摘するとおり、社会主義勢力、民族解放勢力、民主勢力およびいつさいの平和勢力が共同して闘うならば、アメリカ帝国主義の侵略と戦争の計画をうちやぶって、世界大戦の勃発を阻止することができる、と。

帝国主義といっさいの反動派にいかに対処するかという問題については、中国共産党は一貫して、戦略的にはかれらを蔑視し、戦術的にはかれらを重視すべきであると考えている。いいかえ

ると、一方で戦略的に、長期の全体的観点からみるならば、とどのつまり、帝国主義といっさいの反動派はかならず失敗し、人民大衆はかならず勝利する。もしもこうした認識がなければ、人民大衆をはげまして、自信満々、帝国主義とすべての反動派にたいするだんこたる革命闘争をすすめさせることはできず、革命を勝利にみちびくこともできない。他方、戦術的にみて、当面のあらゆる具体問題については、やはり帝国主義とすべての反動派に真剣に対処せねばならず、敵陣で慎重な態度をとり、闘争の技術に工夫をこらさねばならぬ。もしもこうした認識がなければ、成功裏に革命闘争をすすめることができず、挫折と失敗をなめる危険があり、革命を勝利にみちびくこともできない。中国共産党がゆらい堅持してきた、戦略的には敵を蔑視し、戦術的には敵を重視するという観点は、われわれがつねに口にしてる帝国主義とすべての反動派はハリコの虎だという観点にはかならない、これは完全にマルクス・レーニン主義の観点である。われわれは投降主義にも反対するし、冒險主義にも反対する。革命をおこない、勝利をおさめようとするものはすべて、敵にたいしてこうした態度をとるほかに、他の態度をとることはできない。なぜなら、戦略的に敵を蔑視する勇気がなければ、かならず投降主義の誤りをおかすことになる。また、戦術的に、具体的な闘争のなかで軽はずみで、ほんざいな態度をとれば、かならず冒險主義の誤りをおかすことになる。また、戦略的に敵を蔑視する勇気がなく、戦術的にも軽

はずみで、ほんざいな態度をとれば、戦略的には投降主義の誤りをおかし、戦術的にも冒險主義の誤りをおかすことになる。

核兵器に対処する問題については、中国の共産主義者は、大きな破壊力をもつ核兵器の全般的な禁止を一貫して主張し、帝国主義の犯罪的な核戦争政策に一貫して反対するとともに、社会主義陣営が、強大で優勢な条件のもとでは、話しあいをつうじ、アメリカ帝国主義をたえず暴露しこれと闘争することをつうじて、核兵器禁止の協定をむすぶこともこれまた可能であると一貫してみとめている。だが、すべてのマルクス・レーニン主義者と各国の革命的人民は、ゆらい、帝国主義の手にする核兵器におしげづいて、帝国主義とその手先にたいする闘争を放棄したことは一度もない。われわれマルクス・レーニン主義者は唯武器論者でもなければ、唯核武器論者でもない。われわれは、ゆらい、核兵器が人類の運命を決定しうるとは思っていない。われわれは、人民大衆こそ史的発展の決定力だと確信している。人民大衆だけが、人類史の運命を決定しうる。われわれは帝国主義の核兵器による威嚇の政策にだんこ反対するものであり、また、社会主義国はもともと核兵器に一切を賭ける必要がなく、核兵器で人をおどしあげる必要もまったくないと考えている。もしもそうすれば、それこそ冒險主義の誤りをおかすことになる。もしも核兵器を盲信して、人民大衆の力を見てとれず、これを信頼せず、帝国主義の核威嚇のまえにあわ

てふためくなら、一方の極端から他方の極端にはしることになり、投降主義の誤りをおかすことになる。

英雄的なキューバ人民は、アメリカ帝国主義に反対する闘いのなかで、投降主義の誤りもおかさなかつたし、冒険主義の誤りもおかさなかつた。キューバ人民は世界各国人民とおなじく平和を愛し、平和をかちとるために努力している。だが、フィデル・カストロ同志がのべているように、「平和の道は、各国人民の権利を犠牲にしたり、各国人民の権利を侵犯したりする道ではない。なぜなら、それこそ戦争をもたらす道だからである」。キューバ統一革命組織全国指導委員会とキューバ革命政府の十一月二十五日の共同声明はおごそかに宣言している。「平和な途と政府間の討議はもつともよい解決の方式である。だが、われわれはまた、帝国主義のまえに決して節をまげるものでないことをかさねて明らかにしておく。われわれはわれわれの断固性によって、帝国主義の力の立場に反撃するであろう。われわれはわれわれの尊厳によって、われわれに膝を折らせようとする帝国主義の陰謀に反撃をくわえるであろう。われわれは最後のひとりの戦士までたたかいぬく決意によって、帝国主義の侵略に反撃をくわえるであろう」と。

キューバ人民はフィデル・カストロを先頭とするキューバ統一革命組織とキューバ政府の確固たる指導のもと、きわめて複雑かつ困難な状況のなかで、一致団結、アメリカ帝国主義にたいす

るだんこたる闘争をすすめて、五項目の正義の要求を堅持しているのであって、いまだかつてアメリカ帝国主義の核兵器による威嚇におどしあげられたことはない、そうして、全世界人民の正義の支援のもと、またしてもアメリカ帝国主義にたいする偉大な勝利をかちとつたのであつた。

中国共産党、中国政府と中国人民は、キューバ統一革命組織とキューバ政府の正しい路線をだんこ支持し、キューバ人民の五項目の正義の要求とその英雄的な闘争をだんこ支持する。これは、中国がその回避することを許されぬプロレタリア国際主義の義務を履行したものである。われわれはたずねたい、中国がアメリカ侵略者に反対するキューバ人民の正義のたたかいを支持することは「冒険主義」だなどというのなら、それならば、中国人民がアメリカ帝国主義の侵略に反対するキューバを支持することにその力をつくさなければいかにして冒険主義とよばないともいのであろうか？ キューバにたいしてむりやりに、主権を放棄し、独立を放棄し、五項目の正義の要求を放棄させようとするばあい、このときにはじめて冒険主義とよばず、投降主義ともよばないともいのであろうか？ 全世界が見てとつたとおり、われわれはキューバに核兵器をはこびこんでゆくことを要求しなかつたし、また、キューバからいゆる「攻撃的」兵器をはこびることをさまたげもしなかつた、だから、われわれについて、「冒険主義」だなどとはまったく言えないし、ましてや全世界を「熱核戦争にひきずりこもう」としているなどは

なおさら言えるものでない。

ある人びとはまた、中印境界問題における中国の正しい立場を、中国がなにかとんでもない災厄をひきおこしたかのように非難している。だが、これまた、事実をはたしてどうか？

中国は、平和な話しあいをつうじて隣国との境界問題を解決することを終始かわることなく主張しており、あい前後してビルマ、ネパールなどの国々とのあいだに、五原則にもとづき、友好的な話しあいと相互の了解、譲歩をつうじて円満に境界問題を解決した。中印境界問題については、ひさしい以前から、いつたい誰が平和な話しあいを拒絶したのか、誰が誰の領土を占領したのか、誰が武力挑発をおこなったのか、また誰が大規模な攻撃をおこなったのか、これはすでに誰の目にもきわめてあきらかである。インドの反動グループが武力によつて、中印境界の状況をあらためようとたくらみ、とめどもなく中国辺境の領土を侵略占領してきたのにたいし、中国人民は多年のあいだこれをたえしのび、平和な話しあいをつうじて公平かつ合理的な解決をもとめようと再三再四、努力してきた。だが、ネール政府は話しあいを完全に拒絶し、中国の忍耐と譲歩を軟弱無能と見てとつた。インドの首相ネールは十月十二日、ほしいままに命令をくだして、中国にたいする攻撃をおこし、中国の辺境守備隊を中国の領土から「一掃」しようとした。中国の辺境守備隊はこのときはじめて自衛の反撃に出たのである。中国は平和を愛する社会主義国であ

るが、われわれはぜつたい他人のあなどるままに身をまかせておくことはできない。中国がインド軍の大規模な攻撃をまえにして自衛の反撃に出たことは、およそ主権国であるかぎり最低限の正当な措置である。中国はインド軍の攻撃に反撃をくわえたのち、ただちに衝突の停止、接触状態からの脱離、会談の再開を提案し、みずからすすんで停戦し、みずからすすんで後退した。事実がすでに立証しているとおり、中国人民がインドの反動的民族主義者の拡張の野心にたいし必要な闘争をすすめたからこそ、中印境界の情勢がやわらぎはじめ、事実上の停戦が実現したのである。

中印境界問題を平和的に解決しようとする中国のこの一貫した誠意ある努力は、ひろく全世界にみとめられている。奇怪しごくなのは、マルクス・レーニン主義者と自称するものが、こともあろうにマルクス・レーニン主義を一から十まで忘れさつていふことであり、かれらは、ネール政府が中印境界の衝突をひきおこし、一貫して和解しようとしないうちにこの反動政策を分析するのに、マルクス・レーニン主義の階級的観点から出発することをまったくしない。かれらは、この政策がインドの大ブルジョアジー、大地主のインド人民に反対し、インドの進歩運動に反対する必要からうまれたものであることを見ようとしないうちに、また、この政策こそ帝国主義、とくにアメリカ帝国主義の必要に応じたものであり、かれらの支持をえているものであることも見ようと

しない。実際には、ここ数年らしいのネール政府はいよいよ残酷に国内の人民を弾圧し、いよいよますますアメリカ帝国主義に投じ、たとえばコンゴ事件のように、多くの重大な国際問題でアメリカ帝国主義の共犯者の役割をはたしている。ネール政府があくまでも反中国の態度をとりつつけているのは、その対内対外政策がいよいよ反動化した結果にはかならない。中国がネール政府を西方においやつたなどと攻撃する人びとは、正に原因と結果をとりちがえているのである。か
 らは中印境界問題について、終始、理非曲直をあきらかにせず、「中立」をよそおい、口先では中国を「兄弟」だなどと言いながら、その実、インドの反動グループを身内のもののように見なしている。いつたい、かれらのマルクス・レーニン主義はどこへなげすてしまったのか？
 いつたい、かれらのプロレタリア国際主義はどこへなげすてしまったのか？ これらの人びとは胸に手をあてて自問してみるべきではないだろうか？

チェコスロバキア共産党の大会の席上、いちぶの人びとはまたしてもアルバニア労働党をほし
 いままに攻撃して、アルバニア労働党の指導者が「ソ連に反対し」、団結を破壊しているのは
 「分裂主義者」であり、「セクト主義者」であるなどといっている。かれらは、中国共産党がア
 ルバニア労働党攻撃に反対し、兄弟党の相互関係の準則をまもっているこの正しい立場を攻撃し
 て、中国共産党にも「分裂主義」、「セクト主義」、「民族主義」の罪名をかぶせている。だ

が、このような白を黒といいくるめる中傷と攻撃はまったく徒勞である。

誰が団結をまもり、誰が分裂主義とセクト主義であるかを判断する基準は、各国共産党・労働
 者党代表者会議が一致して採択したモスクワ宣言とモスクワ声明の規定する兄弟党、兄弟国相互
 関係についての準則である。この準則とは、完全に平等であるという原則、相互に連合もする
 し、自主、独立でもあるという原則、同志的な平等な話しあいをつうじて一致点に到達するとい
 う原則にはかならない。経験が立証するとおり、この正しい原則にもとづいて事にあたりさえす
 れば、兄弟党の団結と兄弟国の団結はうちかためられる、たとえあれこれの意見のくいちがいが
 うまれるとしても、合理的に解決することができる。これに反して、この原則に違反し、兄弟
 党、兄弟国の相互関係のなかで圧力もちいて、自己の意見を他人におしついたり、中傷あるい
 は攻撃のやりかたを話しあいによる一致にすりかえるなら、かならず団結をそこない、分裂主
 義、セクト主義の誤りをおかすことになる。

一年まえ、ソ連共産党第二十二回大会の席上、中国共産党代表団はつぎのようにのべた。「わ
 れわれの考えでは、兄弟党、兄弟国の相互のあいだに不幸にも論争と意見の相違があらわれたば
 あいには、プロレタリア国際主義の精神、平等と話しあいで見解を一致させる原則にもとづい
 て、根気よく解決をはからねばならない。いかなる兄弟党にたいしても公然と一面的な非難をく

わえることは、団結に役だたず、問題の解決に役だたない。兄弟党、兄弟国の相互間の論争を公然と敵のまえにさらけだすことは、マルクス・レーニン主義の慎重な態度とは考えられない」と。

中国共産党がある党の大会で他の党を攻撃することにだんごと反対するのは、兄弟党、兄弟国の相互関係についての準則をまもり、兄弟党、兄弟国の相互間の団結をまもるためにほかならない。われわれがこうした立場をとったからといって、どのような誤りをおかしたことになるのか？ われわれが全力をあげて団結をまもり、団結に不利なやりかたに反対しているのは「分裂主義」と「セクト主義」であつて、まず最初に攻撃をおこし、団結を破壊したものは分裂主義とセクト主義でないなどでもないのだろうか？ 朝鮮労働党の代表団は、チェコスロバキア共産党の大会で、ある人びとが中国共産党を攻撃することに同意しなかつたため非難されるにいたつた。朝鮮労働党のこうした団結をまもる立場は一種の罪であるともいえるのだろうか？ モスクワ宣言とモスクワ声明をまもるものが誤りをおかしたことになり、逆にモスクワ宣言とモスクワ声明にそむくものが正しいともいえるのだろうか？

モスクワ宣言とモスクワ声明の、兄弟党、兄弟国の関係の準則についての規定は、いかなる党にたいしても（大きな党であれ小さな党であれ）、自己の大会で他の兄弟党に攻撃をくわえてもよいという権利をまつたくあたえていない。こうした誤つたやりかたを認めるなら、この党はあの党を攻撃してもよく、きようはこの党を攻撃し、あすはあの党を攻撃してもよいことになる。こうした事態が発展すれば、国際共産主義運動の団結には、こんごどのような局面があらわれるだろうか？

モスクワ宣言とモスクワ声明の規定する、兄弟党、兄弟国の相互関係についての準則は、プロレタリア国際主義の原則が兄弟党、兄弟国の相互関係の問題に具体化されたものにはかならない。もしもこの準則にそむくなら、大國シヨビーニズムあるいはその他の形のブルジョア民族主義の泥沼にはまりこむこととなる。だが、中国共産党がいわゆる「民族主義」の誤りをおかしたと攻撃する人びとは、いったい自己と兄弟党、兄弟国との関係をどのような地位においているのか、自分しんこのことを考えてみたことがあるのだろうか？ あきらかに自分しん、兄弟党、兄弟国の相互関係についての準則にそむいて、他のひとつの兄弟党、兄弟国にたいする攻撃をおこし、民族主義、大國シヨビーニズムの誤つたやりかたをすすめていながら、他人にたいしてもこれに従うよう強要し、もし指揮にしたがわなければ、「民族主義」などという。これをし、プロレタリア国際主義の原則に合致するなどといえるだろうか？ こうした誤つたやりかたこそ分裂主義、セクト主義ではないのか、これこそ民族主義、大國シヨビーニズムのもつとも悪

らつなあらわれではないのか？

アルバニア労働党が「ソ連に反対し」、団結を破壊したと非難している人びとは自分しんに問うてみるべきである、いったいまず最初に事をおこしたのは誰であるか、自己の大会でまず最初にアルバニア労働党を攻撃したのは誰であるか？ 自分には他の兄弟党をほしのままに攻撃する権利をあたえるが、他の兄弟党には答弁する権利すらあたえないというのはいったいどうしたことであるか？ もしもアルバニアの同志が自己を攻撃した他人に回答をあたえることを「ソ連に反対した」などというのなら、まず最初に攻撃をおこし、あまつさえ再三再四アルバニア労働党を攻撃しているものにはたいしては、いったいこれを何とよべばよいのか？ ほしのままに中国共産党を攻撃しているものにはたいしては、これまたいったいなんとよべばよいのか？

共産主義者にとつて最低限の要求は、敵味方をハッキリと区別せねばならぬということ、敵にたいしては容赦せず、味方にたいしてはむつみあわねばならぬということである。ところが、いちぶの人びとはまったく本末を転倒させている。かれらは帝国主義にたいしてはかくも「迎合」し、「たがいに譲歩」しながら、兄弟党と兄弟国にたいしてはともに天をいただかない。かれらは、キバをむきだした敵にたいしては「賢明な妥協」と「自制」の態度をとるが、兄弟党と兄弟国にたいしては和解の態度をとろうとしない。敵にたいしてはかくも「むつみあい」、兄弟党と

社会主義の兄弟国にたいしてはかくも「容赦しない」。これはあきらかに、マルクス・レーニン主義者のとるべき立場では絶対ない。

モスクワ声明は、当面の国際共産主義運動の主要な危険は修正主義であると確認している。モスクワ声明はつぎのように指摘している、「ユーゴスラビア共産主義者同盟の指導者はマルクス・レーニン主義にそむき」、「ユーゴスラビア共産主義者同盟を国際共産主義運動せんたいと対立させ」、「社会主義陣営と世界の共産主義運動に反対する破壊活動をすすめている」と。モスクワ声明はまた各国の共産主義者にたいし、ユーゴスラビア現代修正主義者の反レーニン主義的思想の影響に反対するため積極的に闘争せよと呼びかけている。ところが、いちぶの共産主義者は共産主義の叛徒チトーを天上たかくもちあげ、チトー・グループとかくもむつみあつている。チェコスロバキア共産党の今回の大会では、中国共産党がユーゴスラビアの現代修正主義を暴露することに反対するものさえある。要するに、これらの人びとが団結しようとする相手こそ反対すべき相手であり、かれらが反対している相手こそ団結すべき相手である。こうしたことがモスクワ宣言とモスクワ声明にたいする公然とした無法な違反でないともいふのだろうか？ このような道をあゆめば、最後にはいったいどこへたどりつくことになると思ふか？

すべての事実がものがたつているとおり、中国の共産主義者は全世界のすべての真の共産主義

者とおなじく、一貫してマルクス・レーニン主義とモスクワ宣言、モスクワ声明の革命的原則をまもっている。中国共産党を攻撃する人びとは、強引にわれわれに「教条主義」のレッテルをはりつけようとする。だが、これは、かれらの反対する「教条主義」こそ、ほかならぬ中国の共産主義者とすべての真の共産主義者が堅持するマルクス・レーニン主義の理論的陣地であり、モスクワ宣言とモスクワ声明の革命的原則であることを立証しうるだけである。こうした人びとは、「教条主義反対」の看板をかかげ、いわゆる「創造性」をとさえさえすれば、マルクス・レーニン主義をほしのままに歪曲し、モスクワ宣言とモスクワ声明をほしのままに改竄かざんしうるものと考えている。だが、これは絶対的ゆゑにすることができない。われわれはこれらの人びとにただしい、国際共産主義運動のこのふたつの歴史的文書は各国の共産党・労働者党が一致して採択したものであり、文面にははつきりと署名がしてある。この文書はいまなお効力をもっているのではないのか、この文書はいまなお守らねばならぬものではないのか？

ある人びとはいう、われわれは多数派であり、諸君は少数派である、だから、われわれは創造的マルクス主義者であり、諸君は教条主義者である、われわれは正しく、諸君はまちがっている、と。だが、すこしでも常識のある人なら知っているとおおり、誰が正しく誰がまちがっているか、誰が真理を代表するか、これは決して一時的な多数または少数によつて判断することができ

ない。真理は客観的な存在である。一時的な多数派であっても、終局的には誤りを真理にかえることはできぬ。一時的に少数派であっても、終局的には真理を誤りにかえることはならぬ。あるとき、あるばあいには、真理が多数派のがわになく、逆に少数派のがわにあるということも、史上には往々みられる。第二インターのころ、レーニンとボルシェビキは国際労働運動の少数派だったが、真理は逆にレーニンとボルシェビキのがわにあつた。第一次世界大戦の勃発後、一九一四年十二月にドイツ国会で戦争予算の表決がおこなわれたとき、ドイツ社会民主党の多数の議員は賛成票を投じ、ただリープクネヒトだけが反対票を投じた、だが、真理はリープクネヒトのがわにあつた。およそ真理を堅持する勇氣のある人は自己がいちじ少数派になることを絶対おそれない。ところが、誤りを固執するものはすべて、いちじ多数派になつたととしても、窮極には自己の破産をまぬかれないのである。

マルクス・レーニン主義は、世界でただひとつの最も確実な多数派は、歴史の運命を決定する、全世界人口の九〇パーセント以上をしめる人民であると考へている。九〇パーセント以上の人民の根本利益にそむくものは、あるところ、ある会場で一時わいわいわめきたて、ただけしくふるまつたとしても、けつして真の多数を代表するものでない。かれらの「多数」は一種の仮象的、表面的な現象にすぎず、実質的にはまったく少数なのである。かれらの攻撃する「少数」

こそ、実質的にはまったく多数なのである。マルクス・レーニン主義者はゆらい現象をとおして、本質的に問題を見る。われわれはただ真理に服し、全世界人民の根本利益に服するだけであつて、反マルクス・レーニン主義のいかなる指揮棒にも服しない。帝国主義者、反動派、現代修正主義者がいかにわれわれを罵倒し、いかにわれわれに反対するとしても、われわれがあくまでマルクス・レーニン主義をまもりぬき、真理をまもりぬくこの立場は、ぜったいに動揺するものではない。

われわれは中国共産党を攻撃する人びとのため注意をうながしたい。いわれもなく罵倒してもなんの役にもたたぬ、と。いかに罵詈雑言をあげても、すべてのマルクス・レーニン主義政党の輝かしさをそこなうことはできない。世界に共産党が生まれたその日から、真の共産党で悪罵をあげせられないものをまだ一度も聞いたことがないし、真の共産党で悪罵に屈してしまつたものもこれまた一度も聞いたことがないのである。中国共産党は、帝国主義者、反動派、修正主義者とさまざまの日和見主義者の呪詛と悪罵のなかから成長し、きたえられ、一つまた一つと勝利を勝ちとつてきたのだ。かれらの呪詛と悪罵はわれわれの一本の毛もそこなうことはできなかった。逆にこれこそ、われわれのやったことが正しかつたこと、われわれがマルクス・レーニン主義の原則を堅持していること、また、われわれが全世界人民の根本利益をまもっていることを立

証しているのである。

われわれは中国共産党を攻撃する人びとに注意をうながしたい。いま、アメリカ帝国主義は反中国の大合唱を演出しており、ケネディ自身まかり出て、西方の世界の当面している重要問題はいかに「中共政權」に対処するかだなどと言つている。こうしたとき、諸君はアメリカ帝国主義やその手先とのあいだにはつきり一線を画すべきだと思わないのであるか？

国際共産主義運動のなかにあらわれた、分裂をつくりだす誤つたやりかたは、帝国主義とすべての反動派に有利なだけである。見ていただきたい、帝国主義者、各国の反動派、ユーゴスラビアの現代修正主義者はいまこれさいわいと手を打つてよろこび、国際共産主義運動の分裂を期待しているではないか？ ラスクはさいきん公然と、「共産党の意見の相違は深刻で、影響もひじょうに大きい。」「全世界各国共産党の内部にうまれた混乱は自由世界にとってプラスだ」とのべている。中国共産党とその他のマルクス・レーニン主義政党を攻撃する人びとは考えてみるべきである、敵はいまこのやりかたが自由世界にとって大いにプラスになつたとほめたたえている、これをしも光栄なことといえるだろうか？

国際共産主義運動が前進している道路にあれこれの曲折があらわれるのはすこしも不思議でない。ゆらい、マルクス・レーニン主義は種々さまざまの日和見主義を克服する闘いのなかからた

えまなく発展してきたのである。ゆらい、国際共産主義運動は、種々さまざまな困難を克服するなからたえまなく前進してきたものである。すべての帝国主義者、反動派、現代修正主義者は国際共産主義運動の奔流、全世界人民の偉大な革命闘争の奔流のなかで、ただ歴史の残渣となるのがおちである。

各国の共産主義者は共通の偉大な理想をもち、共通の壮大な事業をもつとともに、共同の敵にたちむかっている。われわれには団結すべきいく千いく万の理由こそあれ、分裂をつくりだす理由はいささかもない。分裂をつくりだしている同志たちよ、目ざめたまえ。中国の共産主義者はここから希望する、各国共産党は、国際共産主義運動の利益に重きをおき、国際プロレタリアートと全世界人民の共同の敵にたいする闘争の利益に重きをおき、われわれのになつて輝かしい歴史的使命に重きをおき、全世界の革命的人民がわれわれによせている切なる期待に重きをおき、モスクワ宣言とモスクワ声明の規定する、兄弟党、兄弟国の相互関係を処理する準則にしたがい、正しい方法をとつて、意見の相違をのぞき、団結をまもるべきである。

みんなに問題を解決する気持ちがありさえすれば、問題を解決する方法をさがしてやることは困難でない。チェコスロバキア共産党大会に出席した中国共産党代表団の声明には、つぎのようについてある。「国際共産主義運動のなかにあらわれたいくつかの重大な原則問題について

意見の相違をなくするため、中国共産党といちぶの兄弟党は、世界各国共産党・労働者党の代表者会議をひらいて、理非曲直をあきらかにし、団結をつよめ、共同して敵にあたることを提案した。われわれは、これこそ問題を解決する唯一の正しい方法であると考える」

中国共産党は各国の兄弟党とともに、マルクス・レーニン主義とプロレタリア国際主義にもとづいて、団結をつよめ、分裂に反対し、世界平和、民族解放、民主主義、社会主義の事業のあらたな勝利のため奮闘することにあらゆる力をつくしたいと思う。われわれは団結して、国際共産主義運動の偉大な団結をまもり、社会主義陣営の偉大な団結をまもり、全世界の革命的人民と平和を愛するすべての人民の偉大な団結をまもるため、あらんかぎりの力をつくしてあくまで闘いぬこうではないか！ われわれはもう一度マルクスとエンゲルスの偉大なスローガンを声たからかにさげぼうではないか、

万国のプロレタリア、団結せよ！

チェコスロバキア共産党第十二回大会における

中国共産党代表団の声明

チェコスロバキア共産党第十二回大会が一九六二年十二月四日から八日までプラハでひらかれた。

チェコスロバキア共産党中央委員会第一書記ノボトニーが、十二月四日の大会でチェコスロバキア共産党中央委員会の活動についての総結報告をおこなった。彼はその報告のなかでアルバニア労働党を攻撃した。

ソ連共産党代表団団長、ソ連共産党中央委員会幹部会員ブレジネフは、同日の大会で挨拶をおこなった。その挨拶のなかで、彼もアルバニア労働党を攻撃し、「自称マルクス主義者」を非難した。

大会で発言し挨拶したいちぶのチェコスロバキア共産党の同志とある兄弟党の同志たちは、中国共産党とアルバニア労働党を攻撃した。また、あるものは中国共産党を攻撃することに同意しない朝鮮労働党を非難した。

中国共産党代表団団長伍修権は十二月五日の大会で挨拶をおこなった。十二月八日、

ノボトニーが結語をのべるまえに、伍修権は「中国共産党代表団の声明」を大会議長団に提出した。ノボトニーは大会で「中国共産党代表団の声明」を読みあげた。

ノボトニーは結語のなかでまたしても中国共産党を攻撃した。

「中国共産党代表団の声明」の全文はつぎのとおりである。

— 編集者

中国共産党代表団の声明

中国共産党代表団は、兄弟党の友宜をつよめ、国際共産主義運動の団結をつよめたいというところからの願いをいただき、招きに応じてチェコスロバキア共産党第十二回大会に出席し、あなた方に祝意を表した。しかし、きわめて不幸なことは、われわれの期待に反し、あなた方の大会で、チェコスロバキア共産党の一部の同志とある兄弟党の同志たちがこの大会の演壇を利用して、ひきつづきアルバニア労働党を攻撃するとともに、中国共産党をも大いに攻撃したことである。こうしたやりかたはモスクワ宣言とモスクワ声明に合致せず、社会主義陣営の団結と国際共産主義運動の団結に不利であり、帝国主義に反対する闘争に不利であり、世界平和をかちとる闘

争に不利であり、また、社会主義諸国民の根本利益にも合致しない。マルクス・レーニン主義とプロレタリア国際主義に反するこうした行動にたいし、われわれは最大の遺憾の意を表せざるをえない。

中国共産党は一貫してマルクス・レーニン主義を堅持し、モスクワ宣言とモスクワ声明の革命的諸原則を堅持している。マルクス・レーニン主義にそむき、モスクワ宣言とモスクワ声明にそむくあらゆる観点と行為に、われわれはだんこ反対する。兄弟党のあいだにおける意見の相違を解決するうえで中国共産党が一貫してとっている立場は、国際共産主義運動の団結をまもり、社会主義陣営の団結をまもり、共同して敵にあたるという利益から出発するものであり、モスクワ宣言とモスクワ声明に規定されているところの、兄弟党、兄弟国の関係についての準則にのつたものである。一年あまりまえ、われわれはすでに、ある党の大会を利用して他のある兄弟党に攻撃をくわえるやりかたにだんこ反対した。こうした誤ったやりかたは意見の相違を大きくし、分裂をつくりだすだけで、それは味方を痛心させ、敵を喜ばせるだけである。しかし、若干の党と人間は、そうした誤ったやりかたをあらためようと考えないばかりか、ますますはげしさをくわえ、分裂主義の道にいよいよ深く足を踏みこんでいる。われわれは、こうした誤ったやりかたがすでに重大な結果をまねいており、もしもこれがつづけられるなら、いつそう重大な結果

をまねくにちがいないことを、指摘しないわけにはゆかない。

一部のものは、アルバニア労働党がある兄弟党のいちぶの同志を非難したといひはり、当面の国際共産主義運動にみられる痛ましい現象をアルバニアの同志の罪にし、さらには、アルバニアの同志が「反ソ」であるなどと事実をまげて責めたてている。これらの人びとは、いったい、誰がこうした状況について責任を負うべきなのか、誰がまっ先にアルバニアの同志を攻撃したのかをなぜ考えてみないのであるか。ある党が勝ちままに自分の大会で他の兄弟党に攻撃をくわえることは正しく、許されるが、攻撃された他の党はそれに答える権利さえないともいえるのか。兄弟党に攻撃をくわえることはマルクス・レーニン主義であり、モスクワ宣言とモスクワ声明に合致するが、攻撃された兄弟党がその攻撃に答えるのは「セクト主義」、「分裂主義」、「教条主義」であり、モスクワ宣言とモスクワ声明にそむくとでもいうのか。もしも、アルバニアの同志の回答が「反ソ」などといわれるのであれば、では質ねるが、まっ先にアルバニアの同志にたいして一連の勝ちままな糾弾をくわえたものは、これをどうよべばよいのか。マルクス・レーニン主義者は、こうした重大問題について、理非曲直をはつきり区別し、黒白を転倒させるべきではない。われわれは、兄弟党のあいだでの意見の相違を解決するには、モスクワ宣言とモスクワ声明に規定されている独立、平等、話しあいによる一致の原則にもとづくほかなく、また、ま

つ先に攻撃をはじめた党がイニシアチブをとる以外に道はない、と考える。われわれは、かさねて衷心からそれをよびかけるものである。

このたびの大会で、一部の同志は、つねにマルクス・レーニン主義の根本原理を堅持している中国共産党を攻撃したが、これはわれわれにいさかきも損害をもたらすものではない。この数十年間、中国共産党は帝国主義者、反動派、修正主義者、日和見主義者の悪罵と攻撃のなかで強大となり、つきつぎに勝利をおさめてきた。この期間に、国際的には帝国主義、反動派、修正主義の側からの反中国大合唱がたしかに演じられた。このことは、中国共産党が真理を堅持し、正義のたたかいを堅持していること、われわれのたたかいが平和、民族解放、民主主義、社会主義をめざす世界人民の事業に有利であつて、帝国主義者に不利であり、反動派に不利であり、修正主義者に不利であることを証明するだけである。中国共産党は永久にマルクス・レーニン主義の基本原理を堅持し、モスクワ宣言とモスクワ声明の立場を堅持し、原則をもつて取り引きをするようなことは永久にしないであろう。ある党の大会を利用して他の党またはいくつかの党を攻撃し、さらにはわめきたてたり、ヤジをとばしたりするなどの正常でない方法をとることは、自分の側に道理があることを証明できず、問題の解決にも役立たない、とわれわれは考える。

国際共産主義運動における若干の重大な原則的問題についての意見の相違を解決するため、かつて中国共産党といくつかの兄弟党は世界各国の共産党と労働者党の代表者会議をひらいて、是非をあきらかにし、団結をつよめ、共同して敵にあたることを提案した。そうすることが問題を解決する唯一の正しい方法だと、われわれは考える。全世界の共産主義者の敵はおなじであり、事業はおなじであり、目標はおなじである。われわれには団結をしないいかなる理由もないのである。中国共産党は、各国の兄弟党とともに、マルクス・レーニン主義とプロレタリア国際主義を基礎として、団結をつよめ、分裂に反対し、平和、民族解放、民主主義、社会主義をめざす各国民の事業の新たな勝利を獲得するためにたたかうことをのぞんでいる。

万国のプロレタリアは団結して
われわれの共同の敵に反対しよう

1962年12月 初版発行

定価 10 円

出 版 者 外 文 出 版 社

中 華 人 民 共 和 国
北 京 阜 成 門 外 百 万 荘

編号: (日) 3050-468

3-J-539P
00028

